

特別講演 3

未来を開く改善活動

[特別講演3]

未来を開く改善活動

中間弘和

公益財団法人日本生産性本部主席経営コンサルタント

●抄 録

1. 生産性向上とは

- ・会社が良くなる／組織の成長
 - ・働く人が良くなる／働き甲斐と個人の成長
- この二つの融合点が「生産性の向上」

生産性向上とは、仕事において、昨日より今日、今日より明日がよくなること。

生産性の向上があると、その果実は様々な形で顧客・会社・働く人へ還元できる。

逆に生産性向上／成長がなければ、昨日と今日、明日は同じ。五年後も十年後も同じとなり、働き甲斐や還元は望むべくもない。

民間市場では市場からの退場をせまられることになる。他の会社が生産性向上という「努力」をするためである。

*最近言われている働き方改革も、生産性向上と両輪をなす施策でなければ、必ず失敗に陥る。

2. 生産性向上と改善／問題解決

生産性を向上させるためには、個人が能力アップするか、いい仕事のやり方へ見直していく＝改善(組織力アップ)の二つの方法が基本。

問題解決や問題意識という言葉がある。

本来あるべき・ありたい姿と現状の間にギャップが発生している状態のことを問題という。「本来あるべき姿・ありたい姿」を持ち得ていない人には、「問題」は存在しない。即ち、問題意識が無

いということになる。

また、あるべき・ありたい姿に到達しても、更に高みを目指す人にとっては、常に「問題」は発生(創造)し続けることになる。つまり、改善と問題解決は同義と捉えられる。

改善の本質は、「ムダ」をなくすことにある。優れた方法が定着すると古いやり方は「ムダ」となる。要するに、何をムダと(定義)するか。が最大のポイントといえる。問題意識のない人＝現状満足の人には、何もムダは見えない。ムダを見つけて出す力こそ、改善の出発点。

3. 問題解決力を高めるポイント

ポイントは、マインド面とテクニカル面。

マインド面がもっとも重要。マインドが高ければ、テクニカルは自ずとついてくる。マインドがないのにテクニカル知識だけ持ち合わせていると単なる評論家に陥る。

マインド面のポイントは、「できないと考えない」「あきらめない」「小さい事の積み重ねを大事にする」の3点。

問題解決力を高めるということは、即ち、「できない、あきらめ」の心との闘い。

最後に、やっかいな問題ほど、原因は「人」であることが多い。相手を動かし、人を巻き込んでいく「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」が問題解決の重要なカギを握る。